

## 巻頭言

山口をフィールドとした地域学研究プロジェクトとして、山口の自然、歴史、文化、観光、産業、教育等様々な分野における地域課題を発掘し解決を図るとともに、地域を科学的に探究することにより、新たな知見を得ると同時に地域社会の活性化に寄与することを目的とした山口学の研究成果として、この度「山口学研究」紀要、第3巻を刊行することができました。今回は令和元年度に採択された研究プロジェクトの中から2報、目的を同じくする投稿論文が4報掲載されています。

山口学研究では、地域の抱える課題は複合的で一つの研究分野のみで解決できるものではなく、様々な分野の知見を結集して、多面的に検討を行うこと必要であるという共通認識のもと、研究者それぞれの専門分野の垣根を越えた文理融合の視点を有し、他の研究機関や地域を巻き込みながら総合的に山口の研究を行う点が特徴のひとつです。

この号では、研究プロジェクトとして山口ブランドの確立を目指して、郷土のオリジナル食材や料理を探し、あわせて地域社会の活性化につなげるために、山口県のオリジナルカンキツ類である「長門大酢」栽培普及のための料理法の研究成果を取りまとめて頂きました。そして、明治時代、日本政府とハワイ王国との「日布渡航条約」のもと約3万人の日本人がハワイに移住し、その中の1/3が山口県民であるだけでなく、4000名が周防大島出身であることに着目し、その理由を明らかにすることで、これから人口減少が進む山口県での難民や移民受け入れの課題解決や国際交流につなげる研究成果を取りまとめて頂いております。これらのような文理を超えた地域課題の解決と科学的探究のために、山口大学の総合知とネットワークをフル活用してこれからも山口学研究を進めていきたいと考えております。山口学研究のモットーは「楽しく夢のある研究を地域とともに！」です。今後も「山口学研究」紀要を通じて、山口県の新しい発見を発信してまいります。

山口大学山口学研究センター長  
進士 正人



## 山口学研究センターについて

平成 27 年 12 月 9 日、山口大学創基 200 周年事業のひとつとして、「山口学研究センター」を設置しました。同センターは、山口県をフィールドとした自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。

この目的に沿った研究プロジェクトを公募・選定し、選定した個々のプロジェクトに対する支援（経費、広報、学外との調整など）を行うとともに、迅速な情報発信によって研究成果を地方自治体や地域社会に還元することで、地方創生や地域活性化の取組に繋げていきます。

---

# 紀要「山口学研究」 【第3巻】

## 目次

---

### I 巻頭言

山口学研究センター長 進士 正人

### II 山口学研究センターについて

### III 研究論文 (2019 年度採択プロジェクト)

研究プロジェクト名：山口・食の温故知新

～長州食材・料理を復活し新たな価値を見出す～

「山口県のオリジナルカンキツ 長門大酢 (*Citrus nagato-ozu*) を使用したレシピの考案」

森永 八江, 五島 淑子, 岡崎 芳夫, 西岡 真理, 柴田 勝 . . . . . 1

研究プロジェクト名：山口県におけるハワイ移民のビッグデータ解析と新規事業の創出

「山口県の周防大島におけるハワイ移民のビッグデータ解析」

杉井 学, クルッツ ゲッラ クリスチヤン フランシスコ, 永井 涼子, 藤原 まみ . . . . . 8

### IV 研究論文 (投稿分)

「山口市大内地区において 2009 年 7 月豪雨により発生した 浸水被害の特徴と土地利用の変遷」

山本 晴彦, 渡邊 祐香, 山本 翔子, 古場 杏奈 . . . . . 15

「コロナ自粛下における山口大学生のコミュニティを促進する試み

-FAVO café とドリンクをキーとした PBL 活動を通して-

山本 夏帆, 向井 梨穂, 寺内 隆人, 海辺 陽香, 有場 雪美, 磯本 杏美花, 上田 真寿美 . . . . . 30

「モバイル LiDAR で捉えた洞窟 — 秋芳洞・大正洞の事例」

楮原 京子 . . . . . 37

「世界最大級の海底火山の衝突 — 秋吉石灰岩の新たな理解」

脇田 浩二 . . . . . 45

### V 投稿規程 . . . . . 54

### VI 編集後記

## 山口学研究センター紀要「山口学研究」投稿規程

(目的等)

第1条 山口大学における山口県の自然文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究成果を活用し、もって地域社会の活性化に寄与することを目的として、山口学研究センター（以下「センター」という）紀要「山口学研究」（以下「紀要」という。）を発行する。

2 紀要の編集及び発行は、本規程の定めるところによる。

(投稿資格)

第2条 紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の常勤及び非常勤の教職員（退職者を含む）
- (2) (1)に定める者を代表者とする山口学研究プロジェクトの共同研究者
- (3) その他、紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が認めた者

(原稿の種類)

第3条 紀要に投稿できる原稿の種類は、「山口学」に関する内容とする。「山口学」とは、山口大学が推進する、山口県に関わる文理融合の研究である。

(原稿の体裁)

第4条 原稿は原則和文とする。原稿はA4判（上下左右に各20mmの余白）にMS明朝10ポイントで横2段組（25字×50行×2段）とし、原則として、図・表・写真を含み12ページ以内とする。原稿は電子媒体で、使用するファイル形式はwordファイルとする。

(原稿の形式)

第5条 下記の(1)～(6)の形式とする

(1) 表題等について

表題及び執筆者氏名はMS明朝16ポイントの太字とし、所属をMS明朝14ポイントとする。一方、英語表記では、表題及び執筆者氏名をTimes New Roman16ポイントとし、所属をTimes New Roman14ポイントとする。

(2) 要旨

要旨は400字以内で、背景・目的・方法・結果・結論等を簡潔に記載する。

(3) 本文

和文の句読点は全角「、」「。」を用いる。

章立ては**1 2 3**…（全角太字）と太字で表記する。節は**1.1. 1.2.**…（半角太字）のように太字で表記する。

(4) 図・表・写真

図・表・写真は本文中にモノクロで挿入し、キャプションも含め版面に収まるよう

作成を行い、記載の順序に番号を付ける。線画をスキャニングする際にはモードはモノクロ 2 階調、解像度は仕上がり時の寸法で 1,200dpi 以上に設定する。また、写真をスキャニングする際には、モードはグレースケール、解像度は仕上がり時の寸法で 350dpi 以上に設定する。

図・表・写真の番号及びキャプション(タイトルや説明)の位置は、図・写真の場合は図・写真の下側、表の場合は表の上側とする。

#### (5) 注釈

注は、1)、2) のように通し番号による上付き数字で示し、本文の後(引用・参考文献の前に)【注】の項目を建て一括して記す。

例：．．．である<sup>1)</sup>。

#### 【注】

1) 注は本文の後に一括して示す。

#### (6) 本文中における文献の引用方法

引用・参考文献については注釈の後、論文の末尾に【引用・参考文献】の項目を建て、日本語文献と英語文献を分けて日本語の場合は著者名五十音順、英語の場合は abc 順で一覧にする。

本文の該当箇所に、著者 1 名の場合(著者姓〇〇, 刊行年) 例：(田中, 2015)、著者 2 名の場合(著者姓〇〇・著者姓〇〇, 刊行年) 例：(田中・中村, 2015)、著者 3 名の場合(著者姓〇〇ほか, 刊行年) 例：(田中ほか, 2015) と表記する。

#### (7) 引用・参考文献一覧の作成様式 (日本語の場合)

=著者姓名=, XXXX (刊行年), 「=論文名=」, 『=書名=』, 発行者, pp. XX-XX (開始頁と終了頁)。(巻号頁は vol. no. pp. で統一)

論文名は「」でくくり、雑誌名を『』でくくる。書籍の場合は、引用内容を「」でくくり、書籍名を『』でくくる。

<例> 山下浩一, 1998, 「〇〇に伴う裂傷の頻度・部位・予防法」, 『日本〇〇学会誌』, 〇〇書店, pp. 97-600.

[URL のみを表示する場合]

上記と同様に引用先の名称と年号に続いて引用箇所のタイトルと URL を付す。

<例> 防災財団, 2018a, 『地域防災指針』 <https://www.bosai.co.jp/content/1266645>

#### (8) 引用・参考文献一覧の作成様式 (英語の場合)

Last Name に続いて、Middle Name と First Name を頭文字とピリオドで表示、各著者の間はカンマでつなぎ、最終著者との間は and でつなぐ。年号に続いて、文献名を“ ”で囲い、雑誌名はイタリックで表示する。巻号は、vol. 及び no. で表示し、頁は pp. の後に最初と最後のページ数をハイフンでつなぐ。doi が分かる場合

は、doi の URL を添える。

〈例〉 Hill, V. A., Barber, E., Carter, N., and Volt, E., 2019, “Turbidity Current caused by Tsunami, 2011”, *Natural Science*, vol. 7, no. 42, pp.23-52, <https://doi.org/10.1166/s40939-018-0353-8>

[書籍全体を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に書籍名を“ ” で囲んで表示し、カンマのあとに出版社を表示し、頁数の後に p. を付す。

〈例〉 Raymond, B., 2003, “Future of Robot”, Mechanic Publishing Co. Ltd., 366 p.

[書籍の一部を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に、引用部の名称を“ ” で囲み、*In:*（イタリック）の後に編集者名を書き、(ed.)あるいは(eds.)と書いたのち、イタリックで書籍名を表示し、カンマのあとに、引用頁数(pp. - )と出版社を示す。

〈例〉 Abbot, V. A., Charleston, E., Porter, N., and Vail, E., 2015, “Ancient Music before J. S. Bach” *In:* Thompson, A.B. and Carry, O.N. (eds.) *Music Science*, American Publishing Co. Ltd. pp.3-66.

[URL のみを表示する場合]

著者ないし引用元の名称の後に閲覧した年号を付し、続いて URL を表示する。

〈例〉 World Heritage Organization, 2019, “Preservation Protocol of Karst Heritage”  
<http://www.worldheritage.com/663546.3.pdf>

(原稿の投稿)

第6条 紀要に投稿しようとする者は、委員会が定める期日までに、センター事務局に対し、委員会が指定する内容に従って原稿を提出しなければならない。

(審査)

第7条 投稿された論文の審査は、委員会が行う。

(論文掲載の可否)

第8条 投稿論文の掲載可否は委員会が決定する。原稿の体裁・内容などについて、委員会により指名された査読委員による査読を経て著者に修正を求めることがある。査読委員による査読は2回までとする。

(校正)

第9条 投稿者が自らの責任で校正を行う。

2 校正は、原則として編集に関わる修正（誤脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など）のみを対象とし、大幅な修正・加筆は認めない。

(著作権等)

第10条 投稿された論文等の著作権は、センターに帰属するものとする。

2 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルを掲載したりする場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理す

るものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。

3 投稿者は、センターに対して、当該論文等の印刷、電子的記録媒体（CD-ROM、DVD-ROM等）への変換・複製、学内外への配布及び公開を原則として許諾するものとする。

第11条 この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、令和元年10月1日から施行する。

附 則（令和3年2月1日変更）

1 この改正は、令和3年2月1日から施行する。

○その他紀要に関する事項

1. 原稿締切日について

原稿締切日はセンターにより採択されたプロジェクトに係るものについては支援終了の翌年度末まで、その他のものについては、投稿前に下記連絡表により投稿者が示すものとする。

2. 原稿の様式について

原稿様式（和文）を投稿者に対して電子データで提供する。

3. 図・表・写真について

紀要は、センターホームページで公開する予定もあるため、モノクロ版とカラー版両方の原稿を作成する。

4. 査読について

投稿者は査読を行う者2名を委員会に対して推薦する（下記表に2名記載してください）。

5. 謝辞について

センターにより採択されたプロジェクトに係るものについては、山口学研究センターのサポートがあったという内容を記載し、それ以外は必要に応じて自由記載とする。

---

以下の内容について、総務企画部地域連携課地域戦略係 ([sh034@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:sh034@yamaguchi-u.ac.jp)) まで連絡願います。

投稿者氏名	
投稿者所属	
内 容	簡潔に記載願います。
原稿提出予定日	令和 年 月 日
査読者 1	所属・氏名等
査読者 2	所属・氏名等



## 編集後記

山口学研究では、山口県に関係する様々な分野の研究を網羅し、文系・理系の分野融合を目指した新しい研究分野を扱っています。第3号に当たる本誌には、2019年採択プロジェクトである、国際総合科学部の杉井 学先生による「山口県の周防大島におけるハワイ移民のビッグデータ解析」と、教育学部の森永八江先生による「山口県のオリジナルカンキツ 長門大酢 (*Citrus nagato-ozu*) を使用したレシピの考案」が収められています。また、山口学研究に採択されたプロジェクト以外からも、山口県を対象とした“山口学”の研究が4件投稿され、本誌に掲載されています。山本晴彦先生の山口市大内地区の浸水被害と土地利用に関する研究、山本夏帆さんによる山大学生のコミュニティ促進の研究、楮原京子先生による鍾乳洞の内部構造の研究、そして小生による石灰岩の付加の研究です。これら6件の研究報告の執筆者の方々には、お忙しい中、大変優れた研究を分かりやすい原稿に仕立てていただきを心より感謝いたしております。併せて、査読・審査にご協力いただきました先生方にも、厚く御礼申し上げます。本誌では、山口県に関係する研究や地域貢献に関する成果を論文・報告・資料・エッセイなど多様な形で掲載しております。今後も、皆様の積極的なご投稿をお待ち申し上げます。

令和5年7月20日

山口学研究センター紀要編集委員長

脇田 浩二

編集委員

五島 淑子

岡本 博明

---

山口大学山口学研究センター紀要「山口学研究」 第3巻

発行日 令和5年7月20日

発行 山口大学山口学研究センター

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

TEL 083-933-5630

編集 山口大学山口学研究センター紀要編集委員会

---